



「ICT はいらない」 から 「これだ」 へ！

mmGPS の “途切れない” 施工が、会社の意識を変えた。

富山県射水市の分家工業株式会社様。舗装・営繕・土木を事業の柱に、公共工事から地元の民間工事まで幅広く手掛ける地元屈指の建設会社です。同社では、これまで何回かトータルステーション方式のグレーダー MC 施工の経験があったそうですが、その際 ICT 施工システムに課題を感じ、強い不信感を抱いていたそうです。その空気を一変させたのが、GNSS で位置情報を取得し、GNSS だけでは難しかった高さ精度を独自のゾーンレーザーで補完する、トップコンの mmGPS。今回、同社が 3D-MC mmGPS フィニッシャー『P-53 mmGPS』と 3D-MC mmGPS 切削機『M-53 mmGPS』の導入に至るまでの経緯や現場にもたらした効果について、代表取締役社長の堀江新一郎様と工務主任の前田誠様、営業部長の高嶋茂樹様を中心に、工事部長の杉谷政宏様、工務主任の多喜涼様にもお話を伺いました。

ー 今まで、ICT 施工に対して不信感があったとか。

前田工務主任：以前、トータルステーション方式のマシンコントロールを使用した際、人やダンプが建機とトータルステーションの視通を遮った瞬間に自動追尾が途切れることが多々ありました。そうなると作業を中断し、トータルステーションまで行って再捕捉しなければなりません。現場では、作業員やダンプなどが周囲を行き交います。作業をしながら、どうしたら追尾が切れないかまで考えるのは大変で、何度も追尾を復旧しなければならない ICT 施工には、「現場が止まってしまう」というイメージしかありませんでした。

高嶋営業部長：追尾が外れると、トータルステーションまで行ってプリズムを探す。この繰り返しは、現場の彼らにとっては大きなストレスだったことでしょう。生産性は上がらない、従来通

りに施工した方が早く終わるという感覚だったと思います。

堀江社長：私自身も反対派でした。「ICT はいらない。邪魔だ」と思っていたほどです。

ー その不信感が「やってみよう」に変わった転機は何だったのでしょうか。

高嶋営業部長：トップコンが募集していた出前相談会（2024 年 12 月）で相談したことがきっかけです。その後、2025 年 6 月の試乗会を経て、mmGPS の技術が、当社の抱えている課題を解消できるのではないかと考えました。

前田工務主任：試乗会で、GNSS を使う mmGPS のシステムを体験したことで、「これならできる」と感じました。そして社長に「ICT を今やなくては」と伝えました。1 年後、10 年後に切羽詰まって始めるのではなく、今から始めて他社より先に経験を積み、「当社はできます」と言え



代表取締役社長
堀江新一郎様



工務主任 前田誠様



営業部長 高嶋茂樹様



工事部長 杉谷政宏様



工務主任 多喜涼様

る状態になれば、先端を走ることができます。現場から会社へ提案するなら今だと考えました。

堀江社長：トータルステーションから GNSS へと考え方が切り替わった瞬間、本人の中に、「これだ」というひらめきがあったのだと思います。その熱意が会社の中に伝わり、会社全体が ICT に取り組んでいこうという感覚になったのではないでしょう。

ー 最初の切削・オーバーレイ施工では、どのような手応えがありましたか。

前田工務主任：mmGPS のシステムを使って、2025 年 8 月に切削、10 月に舗装した現場では、施工中に作業が途切れることは一切ありませんでした。ダンプが建機の前を横切っても問題はなく、以前のように作業を中断する必要もありません。試乗会で「これならできる」と感じた手応えを、実際の施工でも確認できました。従来は追尾が切れないかまで気にしながら作業していましたが、mmGPS ではその心配がありません。施工前に最も懸念していた点が、解消されたことを実感できました。

ー 他の現場での体験談も伺ってみましょう。施工の効率化だけでなく、安心・安全も実感できたとか。

多喜工務主任：私もフィニッシャーに乗ってい

ますが、まだ熟練者ではありません。いわば、腕を補ってくれるような感覚で、自分の感覚だけに頼るのではなく、mmGPS の正確な数値を見ながら施工できることが安心につながっています。路面切削前のマーキングでも数字を書かなくてよくなり、後方の受光器ですぐに高さを確認できるので、とても便利です。

杉谷工事部長：mm 単位の精度で建機を動かせるところまで技術が進歩したことに驚きました。私がこの業界にいる間に、ここまで技術が進歩したのかと、本当に驚いています。どのような現場でも安全面への配慮は欠かせませんが、機械が現場作業をサポートすることで、省力化だけでなく、安全性を高める一つの要素にもなると感じています。

ー mmGPS の導入により、社内のコミュニケーションも変化したそうですね。

高嶋営業部長：このような ICT ツールを介して、ベテランと若手が同じ情報を共有し、同じ舞台で一緒に取り組めるようになりました。この様子を見てみると、私自身も楽しくなりますね。mmGPS がコミュニケーションツールに変わっているのかもしれませんが。若手が成長していることも、ひしひしと感じます。

多喜工務主任：例えばキャリブレーションの際、ここを測定したら、その結果で施工時に建機が

どう動くのか。そうした仕組みを理解して話し合えば、周囲の人にも共有できます。学んだ内容を伝え合うこと自体が、若手同士やベテランとのコミュニケーションにつながっています。

ー 最後に、今後の展望をお聞かせください。

堀江社長：現場はこれからも変化し続けます。求められたことを均一に施工できるという点で、ICT は今後さらに発展し、飛躍していくと思います。ただ、未来を創っていくのは人です。だからこそ、こうした素晴らしいシステムを含めたテクノロジーをしっかりと受け止め、人も成長しながら、そこから得た技術や経験を未来の現場へつなげていきたいと考えています。

ユーザー名：分家工業株式会社
URL：<https://bunke.co.jp/>

使用機種：
3D-MC mmGPS フィニッシャー P-53 mmGPS
3D-MC mmGPS 切削機 M-53 mmGPS

『切削・オーバーレイシステム』
詳しい製品情報はこちらから

